

(20120216)

第2回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー 伊達市ダイアログセミナー

2012年2月25、26日 於

25日：伊達市保原市民センター (024-575-4166, http://9199.jp/phone_page/06971137/)

26日：伊達市保原スカイパレス (0120-44-2257, <http://www.doko.jp/search/shop/sc10419130/>)

発起人

国際放射線防護委員会 (ICRP)

協力と援助

伊達市、福島県、放射線安全フォーラム、AFTC たむらと子どもたちの未来を考える会、
福島のエートス、福島県立医科大学、ベラルーシ緊急事態省チェルノブイル部、経済協力開
発機構・放射線防護公衆衛生委員会、フランス放射線防護・核安全研究所、
ノルウェー放射線防護局、フランス原子力安全局、

宿泊

福島リッチモンドホテル (<http://www.richmondhotel.jp/>)

〒960-8053 福島県福島市三河南町 1-15(福島駅西口)

TEL 024-526-1255 FAX 024-526-1266

同時通訳

ディプロマット社 (平野加奈江、町田公代)

目的

国際放射線防護委員会は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作る責任があることを示している。

この観点に基づき、国際放射線防護委員会は、2011年秋に、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイル事故について経験を有するベラルーシ、ノルウェー、フランスの関係団体からの代表が、一堂に会して、福島原発事故の影響を受けた地域の長期の回復に対する挑戦の方策を見つけるためのダイアログセミナーを行った。

第一回のダイアログセミナーは、2011年11月26日と27日の両日にわたり、福島県庁の会議室でもたれた。参加者は、影響を受けた地域における生活の安全、産物の品質安全、福島以外の地域との連帯の重要性を確認した。さらに参加者は、事故がもたらしたものを評価し、影響を受けた地域での生活からうける放射線被曝を低減するために必要な放射線防護の文化を醸成することの重要性を確認した。

第二回の伊達ダイアログセミナーの目的は、まず伊達市においてこれまでに達成された放射線状況の改善についての報告を受け、住民のさらなる生活改善のためのその改善への道について現段階での障害になるものを討論することである。

今回のセミナーは、自由な対話と活発な討論を確保するため30名程度の討論者に、一般の方々の傍聴も加えて構成される。本セミナーにおいて、国際放射線防護委員会委員

は、対話の仲介役を果たす。対話のまとめと勧告は、伊達市、福島県、日本政府におわたしする。なお、本会合は、日本語と英語で行う。

プログラム

第1日目（2月25日）

（市：プロジェクター、スクリーン、ハンドマイク3本、水ペットボトル150本）

（平野、高江洲：同時通訳機器の設定、イヤフォン100台）

（会場：大机+椅子席35、傍聴席椅子65、進行係2名+通訳2名が座る机・椅子）

13:00-14:00 開会

- Jacques Lochard 氏、仁志田昇司氏、田中俊一氏による歓迎の挨拶
- 国内参加者による自己紹介（名前、専門、経験）（各1分）
- 外国参加者による自己紹介（名前、専門、チェルノブイル関連経験）（各1分）

14:00 - 15:30 セッション1：伊達市の取り組み

- 伊達市における復活への取組み（10分）
復活への取組み：伊達市長 仁志田昇司
- 伊達市のコミュニティーの取組みと連携（20分）
諏訪野の取組み：諏訪野町内会々長 松田秀樹
小国の取組み：きれいな小国を取り戻す会々長 佐藤惣洋
- 伊達市の教員による取組み（10分）
保原小学校の取組み：保原小学校長 宍戸正幸
- 伊達市の医療分野での取組み（10分）
伊達市における取組み：伊達医師会長 中野新一
- セッション総合討論とまとめ（40分）

15:30 - 15:50 休憩

15:50 - 17:40 セッション2：生産者と消費者をむすぶ

- 農家の取組み：（20分）
伊達市果樹農家 清野新一
伊達市米農家
- 生産者団体の取組み：（10分）
JA 伊達みらい部長 数又清市
- 伊達・福島の流通・消費：（10分）
コープふくしま理事長 八島博正
- 外部の流通・消費（10分）：
コープとうきょう理事 河野恵美子
- セッション総合討論とまとめ（60分）

（マイクロバスによる移動）

18:00-20:20 会食 JA みらいホール保原

20:38 阿武隈急行で福島へ

2日目（2月26日）

09:00-10:45 セッション3：チェルノブイリの教訓

- ベラルーシの取り組み（15分+15分）
農産の取り組み：ベラルーシ科学院 ヨセフ・ボグデビッチ
地域内と地域外のリスクコミュニケーション：チェルノブイリ原発災害問題
ロシア・ベラルーシ情報センター ゴイア・トラフィムチク
- ノルウエーの取り組み（15分+15分）
取り組みに対する拒否：ノルウエー放射線防護局 アストリッド・リーランド
 SAMEの人々の全身計測と健康：ノルウエー放射線防護局
ハーバード・トーリング
- エートスプロジェクトとコアプログラム（15分+15分）
健康調査：放射線防護核安全研究所 フランソワ・ロリンジャー
放射線防護の文化：フランス核防護評価センター ティエリー・シュナイダー
- セッション総合討論とまとめ（15分）

10:45-11:00 休憩

11:00-12:20 セッション4：伊達市と福島の将来にむけて

- NPO活動と専門家の意見
福島におけるエートス活動：福島のエートス 鎌田陽子（10分）
飯館の再生にむけて：東京大学大学院 中川恵一（10分）
たむら市での取り組み：AFTC たむらと子どもたちの未来を考える会 半谷輝己
復活におけるNPOの役割：国連大学 安井至（10分）
福島再生とコミュニティー医療の役割：福島県医師会常務理事 丹治伸夫（10分）
- セッション総合討論とまとめ（30分）

12:20-13:20 昼食（仕出し弁当）

13:20-15:35 セッション5：伊達市をモデルとして（市、県、国+全員）

- 課題：伊達市の挑戦のためには（住民、市、県、国による問題の洗出し）
- 課題：状況の改善にむけて必要な事項（住民、市、県、国）
課題：地域や国レベルの協力
去年11月以来の展開：福島民報 早川正也（5分）
去年11月以来の展開：福島民友 菊池克彦（5分）
去年11月以来の展開：NHK 科学文化部 藪内潤也（5分）
県から伊達市に：福島県生活環境部 小牛田政光（10分）
国から伊達市に：福島県環境再生事務所 森谷賢（10分）
伊達市から県・国に：伊達市長 仁志田昇司（10分）
外から見ると：放射線安全フォーラム 田中俊一（10分）
外国の視点：経済協力開発機構 テッド・ラゾ（10分）
- セッション総合討論とまとめ（70分）

15:35-15:50 休憩

15:50-16:30: まとめと提言

関係者による論点のまとめと提言のアウトライン